

農学部

College of Agriculture

地球の生命を育む科学を通じ、世界で輝くグローバル人材へ

21世紀に私たちが抱く、安定した食料生産、持続可能な社会と環境、安心で付加価値の高い食品など、さまざまな“夢”の具現化とその先にある“社会貢献”をめざします。講義による知識学修と、実験・実習をとおしての技能学修により、総合的かつ学際的な視点を身につけます。キャンパス内の広大な農場、多様な研究施設はもとより、北海道や鹿児島などの研修施設での「実物」をベースにした連携学修で学びの深化が実感できます。

学びのPOINT

生産農学科

植物・動物・昆虫・微生物など地球上で共存しているすべての生物が学びの対象となります。キャンパス内に農場があるため、講義と実際の栽培が関連付けて体験できます。さらに充実した実験設備を利用し、園芸作物の基本生理や栽培技術、遺伝子組み換え、医療や農業開発につながる生理活性物質の探索、昆虫の脳の仕組み、動物の免疫などの実験をとおして生産農学に役立つ知識を養います。学びのキーワードは「生物と化学」。



理科教員養成プログラム

理科教育の重要性が叫ばれるなか、児童や生徒に、自然科学のおもしろさを生き生きと伝えられる人材が求められています。そこで、実験や実習をとおして自ら“本物”を体験することを重視したカリキュラムを用意。本プログラムでは体験を重視した理科の教育（指導）法を修得し、自然科学の幅広い知識と教育スキルを身につけた理科・農業科教員を養成します。小学校教諭（2種）の免許状を取得することも可能です。



環境農学科

「持続可能な開発目標（SDGs）」達成に貢献できる人材養成をめざし、「環境」を中心に「自然、農業、社会のつながり」を理解し、地域性と国際性の多様な視点を育てるカリキュラムを用意。2年次の海外留学プログラム（カナダかオーストラリア、約4か月間）や国内実習プログラム（北海道か鹿児島、1週間）、3年次以降の専門領域（生態系科学または持続的農業）での実験・実習や卒業研究をとおして、体験的に学修します。



先端食農学科

先端食農学科では、未来の食料生産技術や食品の機能、食品生産加工技術について、体系的に学修し、「食」と「農」に直結するさまざまな分野の研究に取り組みます。また、未来型食料生産システムとして、LEDを用いた大型の実習施設をいち早く設置。食品加工製造技術についても、充実した実習施設で学ぶことができます。生命現象への理解を深めながら、安全安心で、機能的にも優れた食品や食料生産のあり方を探求します。



充実した施設環境

SCIENCE HALL



SCIENCE HALLには、生産農学科、環境農学科、先端食農学科の研究領域が集結。各学科の専門領域（計8領域）の実験室があり、それぞれに適した研究環境を整備しています。最上階には、最新のテクノロジーを導入した遺伝子解析施設もあり、ミツバチ・動物用の最新設備や遺伝子組み換え植物作りもできる設備も充実。さまざまな最新設備で最先端の研究をサポートしています。

▶▶ 詳しくはP.28へ

Consilience Hall 2020



農学部をはじめ複数の学部が利用する、自然科学の基礎実験拠点。各施設や機器を共有することで、学部などの枠を超えた学生や教職員との交流を促し、創造的研究環境を生み出していくことができるように設計されています。ホール内は、実験室や工房エリアなど学修した知識を実践する環境が設けられています。

▶▶ 詳しくはP.27へ

玉川大学 学内農場



校舎に隣接している学内農場は約4haあり、農場実習で野菜、花き、果樹、水稲などの試験栽培が行われているほか、卒業研究の場として多くの学生に利用されています。実習では土作りから、播種、育苗、病虫害防除、収穫などの管理作業を習得します。日々の管理をとおして観察力や栽培の難しさや楽しさを学ぶことができます。

北海道弟子屈農場／鹿児島南さつま久志農場



125haの農場と演習林が広がる北海道弟子屈農場にある「美留和晴耕塾」では、これらの環境を使った実習とともに、釧路川周辺の生態系調査などを実施しています。また、白砂の浜・サンゴの海に面した鹿児島南さつま久志農場にある「久志晴耕塾」では、温暖な気候を利用して柑橘類の栽培やマンゴー等の熱帯果樹の試験栽培を行っています。

Message

小原 廣幸 農学部長

未知なる ライフサイエンス研究へ

農学部では、キャンパス内に農場や研修施設があり、農作物の変化を毎日観察し、栽培管理することができ、観察力や栽培技術を身につけることができます。また、学外の施設（北海道、箱根、鹿児島）も、休暇期間に行われる実習で利用することができます。キャンパス内での講義において知識や理論を学修し、農場や研修施設では実物学修を進め、農業の大切さを生き生きと伝えられる能力を備えた人材を育てています。

ADMISSION POLICY

アドミッション・ポリシー

農学部では、玉川大学の建学の精神・教育理念、農学部の教育方針を基盤とし、国際社会が必要とする能力と態度を備えた人材の養成を担う高等教育機関としての役割を果たすため、以下に示す各学科のアドミッション・ポリシーを設定します。

【生産農学科】

生産農学科ではあらゆる生物を人間生活の貴重な「資源」としてとらえ生物の持つ機能や特性を分子から個体の視点で追究できる人材の養成を目指す。そのためアドミッション・ポリシーを以下のように設定する。

- ①高等学校の課程における理数系科目（生物、化学、数学）の教科書レベルの知識を持つ人。また、語学系科目に対する学力の指標の一つとして、関連する検定（実用英語技能検定準2級程度）、テスト（TOEIC®L&R400点程度）などで相応のスコアを有していることが望ましい。
- ②農学に対して関心を持ち、積極的に専門知識を学ぼうとする姿勢を持つ人。
- ③実験や実習にも積極的に取り組む意欲を持つ人。
- ④自分の考えをしっかりと言葉で表現でき、かつ互いに議論でき、協調性のある人。

農学部
ホームページ



理科教員養成プログラムについては、左記に加え、以下も要項として求める。

- ①自然科学全般に対して強い関心を持つ人。
- ②理科教員や農業科教員、または教育関連の職業に就くことを第一目標としている人。
- ③理科や農業の面白さや大切さを、自らの経験を通して生徒に伝えることのできる教員を目指す人。
- ④教材研究などに積極的かつ安全に取り組める人。
- ⑤コミュニケーション力、文章作成力、協調性を備え、さまざまな問題の解決に主体的に取り組める人。

【環境農学科】

環境農学科では、自然環境や生産環境をよく理解し、地域性と国際的なセンスを兼ね備え、持続的循環型社会の構築に貢献できる人材を養成することを目指す。そのために、アドミッション・ポリシーを以下のように設定する。

- ①高等学校の課程における理数系科目（生物、化学、

数学）の教科書レベルの知識を持つ人。また、語学系科目に対する学力の指標の一つとして、関連する検定（実用英語技能検定準2級程度）、テスト（TOEIC®L&R400点程度）などで相応のスコアを有していることが望ましい。

- ②自然環境や農業における諸問題や異文化交流を踏まえた国際協力について、常に問題意識を持って考えられる人。
- ③海外留学に4か月間参加することを承諾できる人、在学期間を通して英語に関する授業に積極的に取り組むことができる人。
- ④本学科で学んだことを活かし、卒業後に環境・農業分野を始めとし、さまざまな分野で貢献する意欲を有する人。

【先端食農学科】

先端食農学科では、世界の食料生産や食料供給、食品加工や食品製造にかかわる状況を理解し、

それらにかかわる専門的な知識と実践的な能力を修得することにより、社会で必要とされる食料生産や食品加工の現場で貢献できる人材の養成を目指す。そのためのアドミッション・ポリシーを以下のように設定する。

- ①高等学校の課程における主要な科目（生物、化学、数学）の教科書レベルの知識を持つ人。また、語学系科目に対する学力の指標の一つとして、関連する検定（実用英語技能検定準2級程度）、テスト（TOEIC®L&R400点程度）などで相応のスコアを有していることが望ましい。
- ②食料生産、食料供給、食品製造、食品加工などについて問題意識を持ち、食料や食品に関する新しい技術やその開発に関心をもって取り組むことができる人。
- ③本学科で学んだことを活かし、卒業後に食料生産や食品製造加工を始めとするさまざまな分野で貢献する意欲を有する人。